

九州北部豪雨6周年



# 立野ダムと白川の安全 を考えるシンポジウム



熊本地震で大半が土砂崩壊した  
立野ダム水没予定地(パスコ航空写真に加筆)



講師:大熊 孝(おおくま たかし)氏  
新潟市潟環境研究所所長・水野駅ビ  
ュー福島潟名誉館長・NPO 法人新潟  
水辺の会顧問・新潟大学名誉教授

1942年台北生まれ、千葉育ち、新潟  
市在住、東京大学工学部土木工学科  
卒、工学博士、専門は河川工学・土  
木史 自然と人の関係、川と人の関  
係を地域住民の立場を尊重しながら  
研究している。

\*\*\*\*\*  
著書に、「利根川治水の変遷と水害」  
(東大出版会、1981)、「洪水と治水の河川史」(平凡社、1988、  
文庫本化 2007)、「川がつくった川・人がつくった川」(ポ  
プラ社、1995)、「技術にも自治があるー治水技術の伝統と  
近代ー」(農文協、2004)、「社会的共通資本としての川」(東  
大出版会、2010、編著)などがある。

ごあいさつ

2012年7月12日の九州北部豪雨から6年が経とうとしています。その後の大規模な河川改修で、白川は大洪水でもあふれない川になりました。一昨年の熊本地震で、立野ダム建設予定地の両岸は大きく崩壊し、ダム水没予定地の大半が崩れました。多くの住民が「こんな危険な場所にもうダムは造られない」と思いましたが、国土交通省は立野ダムの本体建設に取りかかろうとしています。

今回は、2001年からの「川辺川ダムを考える住民討論集会」でも住民側専門家としてご登壇いただいた、新潟大学名誉教授(河川工学・土木史)の大熊孝先生をお招きし、立野ダム建設と白川の安全、そして日本人の伝統的自然観と治水のあり方について考えたいと思います。是非ご参加ください。

- とき 2018年7月22日(日)午後6時半開会
- 場所 パレアホール(鶴屋東館10階)熊本市中央区手取本町8-9 ●入場無料
- 内容 現地からの報告「立野ダムと白川の改修はどうなっているのか」

講師 **大熊 孝**氏(新潟大学名誉教授 河川工学)  
講演「日本人の伝統的自然観と治水のあり方」

共催 白川の安全と立野ダムを考える流域住民連絡会 立野ダムによらない自然と生活を守る会 ダムによらない治水・利水を考える県議の会 立野ダムによらない白川の治水を考える熊本市議の会 南阿蘇自然守り隊 白川・渡鹿の会 白川の安全と立野ダムを考える北区の会 白川の治水を考える中央区の会 白川の安全と立野ダムを考える江南・江原・藤園の会 大津町立野ダムを考える会 白川の安全と立野ダムを考える菊陽の会 NPO法人くまもと未来ネット

■連絡先 熊本市西区島崎4丁目5-13 中島康 電話 090-2505-3880 <http://stopdam.aso3.org/>  
☆このチラシは、住民の皆様方の貴重なカンパにより作成することができました。